

ゆがわら海藻プロジェクトについて

資料 No. 4

1 プロジェクトの概要

本プロジェクトは、海藻の種苗生産から栽培、商品化まで一貫して取り組むベンチャー企業「シーベジタブル社」と連携し、湯河原町の海や温泉などの地域資源との相性や可能性を探る実証実験を行うものです。まずは小規模な実証からスタートし、地域との連携のあり方や今後の展開可能性を丁寧に検討していきます。

これまで、2024年12月から2025年にかけて、シーベジタブル社と湯河原町が段階的に対話と検討を重ねてきたもので、地域政策課、農林水産課、温泉課など庁内の各課の協力のもと、視察や意見交換を通じて地域資源との相性を探ってきた構想です。

2 実証実験の概要

- ・陸上での海藻の種苗育成、海上での海藻育成の実証
(水質検査、種苗育成、生育・成長率調査、経済性評価など)
- ・温泉熱を利用した海藻由来の醤油製造の実証
(熟成試験、経済性評価など)

3 主な関係者と役割

このプロジェクトには、以下の関係者が連携して取り組みます。

- ・ **シーベジタブル社**
海藻種苗の研究・生産、栽培技術提供、湯河原の資源を活かした商品開発
- ・ **MUFG・ソーシャルエックス**
企業とのマッチング、クラファン支援、スキーム構築、事務伴走
- ・ **湯河原町**
候補地選定、庁内調整、地域連携、漁協や地元事業者との調整支援



4 湯河原町にとっての主なメリット

(1) 地域価値の向上と地域資源の活用

- ・ ふるさと納税の新たなコンテンツ（返礼品）創出の可能性
- ・ 海藻栽培により藻場の再生や水質改善など、海の生態系回復に貢献
- ・ 温泉の熱を活かした発酵食品の開発など、地域資源を活かした食文化の創出
- ・ 大手百貨店やコンビニエンスストアなどで採用実績のある企業との協業を通じ、湯河原の知名度の向上
- ・ 地域資源を活かす取り組みの一環として位置づけられる
- ・ 海洋教育や地域学習の教材としての活用も視野に入れられ、地域の子どもたちにとっての学びの機会にもつながる

(2) 地域資源を活かした新たな産業の創出

- ・ 湯河原の海・沿岸部を活かし、海藻栽培という新たな産業の可能性を検証
- ・ 福浦漁港を含む既存の漁場の活性化（例：漁港内でのブレ実証）
- ・ 漁師の収益多角化や遊休漁港・漁船の有効活用にもつながる可能性
- ・ 若年層も含めた地場雇用の創出の可能性

(3) 外部との連携による展開の可能性

- ・ 企業版ふるさと納税やクラウドファンディングによる外部資金の流入を促進
- ・ 実証実験フィールドとして、ほかの一次産業系スタートアップの誘致や連携も見込める
- ・ 「湯河原モデル」として注目される先進事例の創出に
- ・ 持続可能性・革新性を備えたベンチャーと協働することで、町の柔軟性や挑戦を受け入れる姿勢を内外に発信できる

5 スケジュール（案）

